

中国の平和攻勢に注意せよ

吳釗燮

韓国の軍艦船の沈没をめぐる、中国が北朝鮮をサポートする意思を示し、また南シナ海における領土的野心を示したことから、ここ数ヶ月、西太平洋における緊張は大いに高まっている。地域情勢の劇的な変化及び不安定な国民党政府の姿勢によって中台関係の発展が保障されれば、当該地域各国の国家利益に根本的な影響を与えことになるかもしれない。

2008年12月31日、中国は台湾問題の解決に向けたロードマップを胡六点のなかで打ち出した。これは政治的な対話を伴って緊密な経済・文化関係を築くべく、台湾を「一つの中国」の原則に従わせようというものだ。中国の想定する政治的解決とは、「一つの中国の原則」に基づき、平和協定が締結される前に、「歴史の終焉」をめぐる話し合いに台湾に応じさせることである。平和協定が締結されれば、軍事的信頼醸成措置の詳細について検討することになるだろう。同時に、中国は統合が実現するまでの兩岸関係の政治的フレームワークを提供するはずだ。台湾の国際的な参与も当然ながら中国によってアレンジされることになる。そして、その概念は中国による「完全なる統合」という見解の下に置かれ、「如何なる干渉も受けない。胡の指示である。」ということだ。

注意深く見れば、中国の政治的なロードマップに対する台湾の反応は非常に鈍く、いかなる対案も示されていないことが分かる。唯一の公式な見解は、馬英九総統が2009年4月に開催された米

戦略国際問題研究所(CSIS)とのビデオ会議で述べたもので、馬は胡六点には真の善意があると受け止めている。馬総統自身、平和協定は台湾に向けられているミサイルを中国が撤去しない限り締結しないと何度も述べている。馬は撤去を求めるミサイルの数や撤去したミサイルの取り壊し、或いはミサイル撤去をめぐる何らかの国際的な監視については明確に述べていない。当然ながら、台湾側の消極的な姿勢は馬政府が中国の要求を拒否していないことから見て取れる。

中国の政治的なロードマップに対する台湾側の比較的消極的な反応を受けて、台湾の現状維持を望む人々は、中台間が水面下で申し合わせや合意をしているのではないかと懸念している。北朝鮮の無謀な行動に対して、あらゆる党に理性的且つ平和的な行動を呼びかけた中国と足並みをそろえた台湾政府の反応からすれば、こうした懸念は当然だ。東アジアで長年にわたって米国との長期的な友好関係を築いてきたものが、米国への支持を宣言したり、米国への支持に基づいて行動するよりも、中国との調和を宣言することに抵抗を覚えないとは想像も及ばないことである。

中台間の平和は、中台双方の国民の願いだ。しかしながら、中国のいう「一つの中国の原則」は、台湾は中国の一部であること、「歴史の終焉」は国共内戦において分裂した二つの党を再び一つにすること、平和協定や軍事的信頼醸成措置は台湾にとって最も重要なパートナーであるアメリカとの安

全保障協力が終了することを意味する。これらは台湾の現在の独立した地位に反する重層的な束縛だ。仮に中国の想定する平和が実現した場合、それは台湾が中国の手中に落ちることを意味する。これは間違いなく当該地域の戦略的構図を揺るがす深刻なシナリオだ。平和の最も重要な概念は、軍事行動がなく、戦争の脅威がないことであり、国際的に認識されている同概念の下、中国が台湾に対する軍事力の行使を放棄したときに、ようやく中台間の平和が実現するであろう。

さしあたり、馬総統は深刻な国内論争が起きるのを懸念して、政治的交渉に進もうとする中国からの圧力に耐えている。しかしながら、二つの要素が中台間の政治的対話の流れに影響を与えることになるだろう。一つは、2013年3月に最高指導者の座を下りる前に功績を残したいとする胡錦濤の願望だ。もう一つは、台湾における馬総統に対する断続的な支持率の低さである。中国の政府関係者は経済協力枠組協定(ECFA)の締結に続く政治的対話に対する要求を高めており、一つ目の要素はすでに動き始めたようだ。

立法院の選挙や予想される五都市選挙の敗戦といった国民党の一連の流れからすると、中国は2012年に実施される総統選挙を見据え、「親中の馬」が引き続き総統の座につけるよう国民党支持を拡大するだろう。予想されるシナリオとしては、いくつかのニュースでもすでに報じられているように、中国は現在、馬の選挙戦を助け、また平和協定のための政治的対話と引き換えに、ミサイル撤去の可能性について検討している。選挙戦における馬の支持率が上昇し、中国は平和構築をめぐっ

て国際的な評価を得ることになるかもしれない。馬が再選を目指すなら、中国のロードマップの受け入れを拒否することは非常に難しくなるだろう。もちろん、これはまた米国と台湾との安全保障同盟の終焉をも意味する。中国にとって、これは三匹の鳥を殺める石のようなものだ。しかしながら、台湾にとっては、不幸な状況を逆転する見通しのない「一つの中国」に政治的に陥ることを意味する。これはまた当該地域の戦略的構図を劇的に変えることになり、日本がこのシナリオを懸念するには十分な理由がある。

このシナリオは総統選がヒートアップし始め、また馬の支持率が依然低迷しているであろう2011年夏頃から起こり始めると見ている。WHAへの台湾の参加、軍事的信頼醸成措置やその他の政治的なやりとりをめぐる国民党と共産党による不透明なハンドリングから判断すれば、これは現実のものとなり、当該地域における中国の支配を懸念する人々にとっては悪夢となるだろう。■